



平成21年9月14日
卓話 『平安神宮と時代祭』

宗教法人 平安神宮 宮司

九條 道弘 様



平安神宮は創建が明治28年3月でございます。面積は全部で2万坪。1万坪が神域で、ご本殿の裏側に桜で有名なお庭が約1万坪ございます。ご祭神は第50代の桓武天皇さまと第121代の孝明天皇のお二方をお祀りしております。

なぜ平安神宮が出来たかということですが、明治の初め、明治天皇が東京へ転都されて京都は本当にさびれてしまいました。開港によって生糸が高騰したり、西陣織が大打撃を受けて京都経済は低迷し、その上、元治元(1864)年の蛤御門の変によって京都の洛中はほとんど焼失しました。このような危機的な状況のなかで明治2(1869)年、明治天皇が東京に都を移されたわけでございます。それまで鎌倉や江戸時代に京都から政治の中心が外れたことはありましたが、それでも京都が中心であったと思えます。天皇が東京に移られたことから公家や多くの商工業の方々も東京に移りました。当時、7万所帯あったうちの1万所帯が京都を去ってしまったわけです。西陣織や友禅染め、清水焼などの京都の伝統産業も、公家や武家などの有力な顧客を失ったのです。

そこで衰退する京都を何とかしなければならぬと京都の重鎮の方々が立ち上がり、第4回の内国勸業博覧会の誘致を政府に語りかけたわけでございます。この博覧会は京都の伝統産業を中心にした博覧会で大成功を納めます。その博覧会も無事終わり、その建物をただ壊すのはもったいないということで、平安京をつくられた桓武天皇をお祀りしようじゃないかという町衆の機運が高まり、それで平安神宮の創建を見たわけでございます。とにかく平安京の朝堂院に摸して作ろうじゃないかということで、応天門、大極殿、白虎楼という回廊もつくりました。大

きさは平安朝の朝堂院の8分の5の大きさです。平安神宮においてになって大極殿から応天門の方をご覧になって、当時の天皇さまがそこに立たれて朝賀の儀式をご覧になったり、詔をお読みになったりした場所であることを思いだされたら、また感慨が違うんじゃないかと思えます。



桓武天皇さまは光仁天皇の長子として天平9(737)年に誕生されました。天応元(781)年、即位され、45歳で新しい政治が始まったわけです。しかし新政治は必ずしも平穩無事ではなく、平城京に隠然たる勢力を持っておりましてお寺さんの勢力があまりにも強大で、それを排除するため長岡京に移ったのです。

しかし長岡京も長くは持ちませんでした。洪水や疫病が流行り、造営の途半ばで新京である平安京へ移られたわけです。時に794年10月22日であります。時代祭は京都の3大祭の一つで、この10月22日に行われております。

もうひとつ、孝明天皇さまをお祀りしておりますが、孝明天皇は昭和15年10月19日に合祀いたしました。紀元2600年を記念して孝明天皇と一緒に祀りしようという市民の皆様方の声が大きくなり、合祀されたわけでございます。

時間が過ぎてしまいましたので終わりにしたいと思います。ありがとうございました。